水辺利活用·地域活性WG活動報告

開催状況

口	開催日時	会場
第1回	8月30日(木) 18:30~20:00	エールセンター十勝
第2回	12月10日(月)16:00~18:00	エールセンター十勝
第3回	3月7日(木) 11:00~13:00	带広開発建設部2階会議室



第1回WGの様子

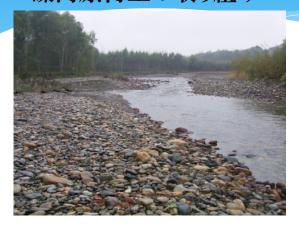


第2回WGの様子

実施概要

Þ	開催日	実施概要
第1回	8月30日	・礫河原再生の取り組みについて・ダム放流後の変化について報告・かわまちづくり支援制度について紹介・利活用アイディアについて意見交換
第2回	12月10日	事例紹介(兵庫県豊岡市・コウノトリ) 東北海道自転車競技連盟会長からの講演 ・自転車利用から見た札内川の可能性 観光アドバイザーからの講演 ・観光素材としての札内川
第3回	3月7日	「望ましい姿」実現に向けたアイディアを整理 平成25年度の活動内容を意見交換

礫河原再生の取り組み



6月に試験的に実施した ダム放流後の概要



Ţ

かわまちづくり支援制度



川沿いのフットパスとしての 利用



- ・放流により河床の付着藻類が剥離更新
- 清潔感、美観が向上
- 親水性向上の効果が期待

利活用アイディア意見交換

礫河原へのアクセス

自転車道として活用 その際にトイレ・休憩所が必要

冬期間の馬ソリ・歩くスキー

観光拠点(道の駅、ガーデン街道等)との連携

ケショウヤナギやトカチスグリの商 品化

などの意見を交換した。

事例紹介(兵庫県豊岡市・コウノトリ)

兵庫県豊岡市のコウノトリ生息地復元の取組が地域活性化につながっているという事例を紹介。

講演① 鎌田利通氏(東北海道自転車競技連盟会長) 『自転車利用から見た札内川の可能性』



札内川を自転車で利用する立場から見たときの必要な条件や課題について講演。

講演②坂田秀明氏(観光アドバイザー) 『観光素材としての札内川』

観光客を札内川に呼び込むため、観光地化するためにに必要な課題について講演。



『のどましい姿』実現に向けたアイディアの整理



2 堤防を活用した 自転車ネットワーク (かわまちづくり支援制度を活用)





3 河川を活用した スポーツレクリエーション



①周辺小中学校を対象とした環境教育の場

治水の杜づくり(植樹) への参加



クリーンウォークとかち IN札内川への参加



河川体験活動 とセットの イベント実施



小中学校の自由研究課題として活用

②堤防を活用した自転車ネットワーク(かわまちづくい支援制度を活用)

札内川の堤防を活用した ロングコース





堤防を利用した 自転車ロードレースの様子

道の駅なかさつないを拠点とした 周遊コース



札内川河川敷





六花の森



三番川

3河川を活用したスポーツ・レクリエーション

春~秋 ランニング&フットパス・フリーウォークコース



平成24年5月20日に開催された「狩勝トレイルランニング」には156名の参加があった。参加者の多くはインターネットで情報を得ての参加であった。

フットパス・フリーウォークも手 軽なレジャーとして全国的に認 知されつつある。



近年の健康ブームの高まりとともにランニング愛好者ウォーキング愛好者が増加し、河川敷・河畔林内を走るコースやウォーキングコースは自然の中のコースとなり、既存のコースとは違った魅力あるコースとして利用が期待できる。

冬 クロスカントリースキーコース

十勝大平原クロスカントリースキー大会(岩内仙境周辺) 平成25年は577人参加



十勝では毎年大平原クロスカントリースキー大会が開催される等、冬期のスポーツのひとつとして根強い人気があるとともに、競技ではなく「歩きスキー」の愛好者もいるため、河川敷にコースが設定された場合、利用が期待できる。

目標具体化作業

すぐできるもの 時間のかかるもの 仕分け作業

札内川の利活用実態を調査 利用平面図・マップ

本当に利用されているのか クリーンウォーク(ゴミの実態)

子どもたちが地域・行政を動かす!

・地域の子どもへ河川体験 ~札内川に学び、彼らが望ましい と思う川を彼らが作る~ そういう場を少しずつ提供

平成25年度活動案

礫河原再生の取り組み

・取り組みにより利活用の可能性があるか・自然環境WGメンバーによるモニタリングとの連携

自転車ネットワークを柱 としたアイディア出し

(拠点周遊コース体験) 楽しいか、楽しくないか